

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第32週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (32週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。  
4 類感染症：日本紅斑熱 1 例。5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、百日咳 10 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等	
2類	結核	宮崎市	60 歳代	男	リンパ節結核	発熱、咽頭痛、頸部腫脹	
		都城	20 歳代	男	無症状病原体保有者	—	
			40 歳代	男	無症状病原体保有者	—	
			60 歳代	男	無症状病原体保有者	—	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	都城	0~4歳	女	—	水様性下痢、軟便、O血清型不明(VT1)	
4類	日本紅斑熱	宮崎市	60 歳代	男	—	発熱、頭痛、発疹	
5類	百日咳	宮崎市	40 歳代	女	—	発熱	
			日南	5~9歳	女	—	持続する咳
				5~9歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
				5~9歳	女	—	持続する咳
				5~9歳	女	—	持続する咳
				10 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
				10 歳代	女	—	持続する咳
			高鍋	60 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、ウーブ
				20 歳代	男	—	持続する咳
				50 歳代	男	—	持続する咳
			70 歳代	男	—	持続する咳	

### 《前週との比較》

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は680人(定点当たり23.2)で、前週比99%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は手足口病である。

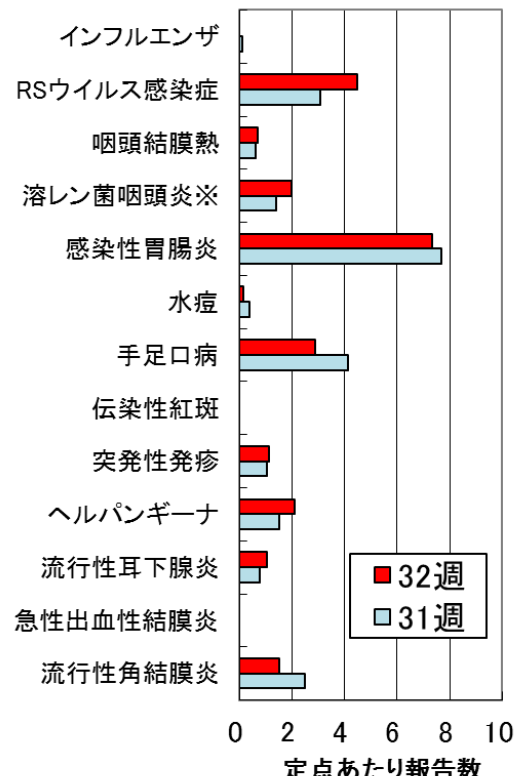
#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【RSウイルス感染症】

報告数は139人(4.5)で、前週比145%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.96)の約4.7倍である。延岡(13.8)、高鍋(5.5)保健所からの報告が多く、年齢群別では2歳以下が全体の約9割を占めている。

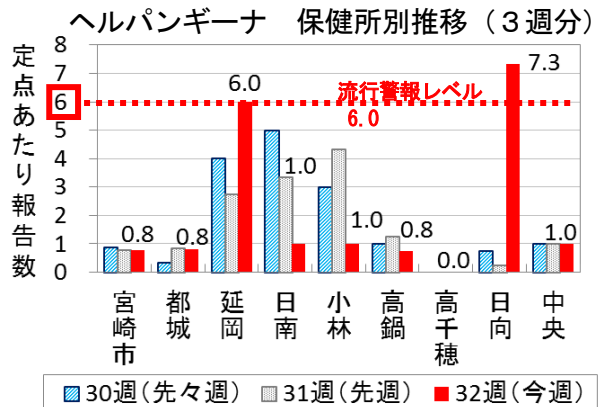
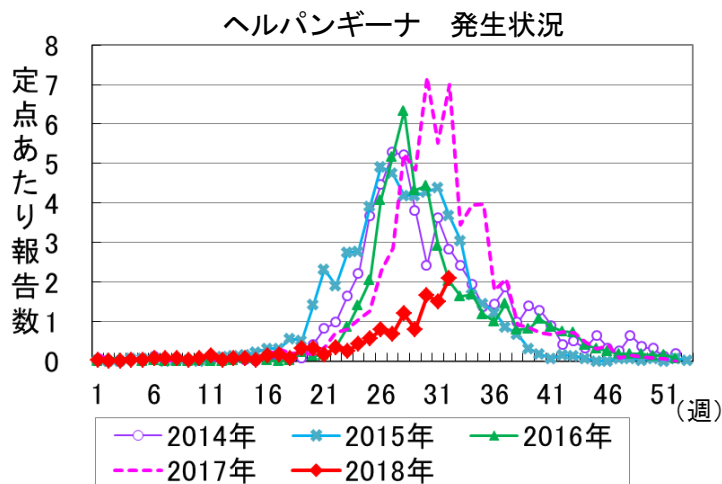
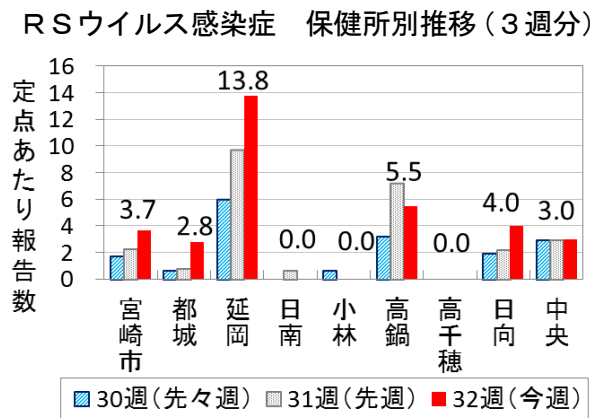
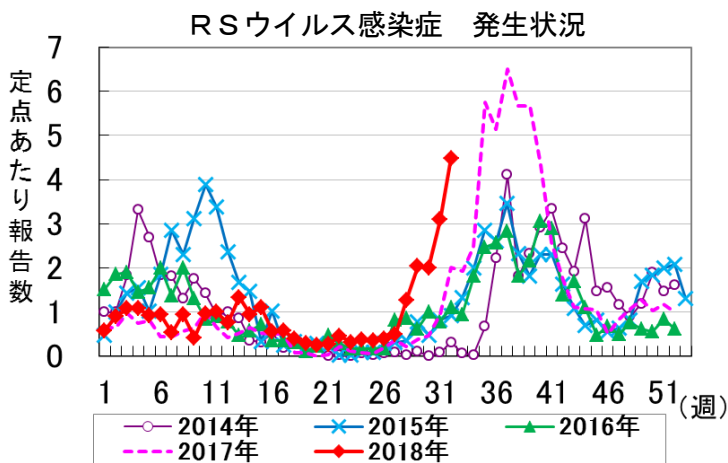
##### 【ヘルパンギーナ】

報告数は65人(2.1)で、前週比138%と増加したが、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.5)の約0.6倍である。日向(7.3)、延岡(6.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~4歳が全体の約8割を占めている。



\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★ 報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	ヘルパンギーナ(6.0)
日南	流行性耳下腺炎(9.7)
小林	感染性胃腸炎(21.0)、手足口病(8.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	ヘルパンギーナ(7.3)
中央	なし

\*流行警報レベル開始基準値\*

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

### 口病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年8月13日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日	衛研番号
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.07.23	下痢、血便	便	2018.08.01	18148
Salmonella Bareilly (O7:y:1,5)	40歳代	女	2018.07.24		膣内分泌物	2018.08.01	18149
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	女	2018.07.25	血便	便	2018.08.04	18151
Salmonella Thompson (O7:k:1,5)	70歳代	男	2018.07.28		便	2018.08.08	18152
Salmonella Thompson (O7:k:1,5)	0~4歳	女	2018.07.28		便	2018.08.08	18153
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.07.25	下痢	便	2018.08.05	18154
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.07.26	下痢	便	2018.08.05	18155
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.07.26	発熱、下痢	便	2018.08.05	18156
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	女	2018.07.30	発熱、下痢	便	2018.08.06	18159
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.07.27	水様性下痢	便	2018.07.31	18165
EHEC (O26:H11 VT1)	40歳代	女	2018.07.28	発熱(38.2℃)、下痢	便	2018.08.02	18166
EHEC (O111:HNM VT1)	0~4歳	男	2018.07.28	発熱(38.8℃)、腹痛、嘔吐、血便	便	2018.07.30	18167
EHEC (O26:H11 VT1)	40歳代	男	2018.07.29	無症状	便	2018.08.03	18168
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.08.02	無症状	便	2018.08.03	18170
EHEC (O26:H11 VT1)	0~4歳	女	2018.08.06	無症状	便	2018.08.07	18171

○保育施設において腸管出血性大腸菌 O26 (VT1) の集団感染が発生した。例年、気温の上昇に伴い患者数の増加がみられることから、夏季は特に注意が必要である。また、腸管出血性大腸菌は食べ物を介した感染だけでなく、簡易用ミニプール水等を介した感染拡大の防止にも注意する必要がある。厚生労働省による「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年3月改訂）では適切な濃度の塩素消毒と①低年齢児が利用することの多い簡易用ミニプール（ビニールプール等）についても塩素消毒を行うこと ②排泄が自立していない乳幼児には個別のたらいを用意し、他者と水を共有しないよう配慮すること③プール遊び前後に、シャワーで汚れを落とし、プール遊び前にはお尻洗いをを行うことの徹底などが推奨されている。

### ★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2018.06.29	エコーウイルス発疹症疑い、発疹、結膜炎	咽頭ぬぐい液	2018.08.13
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2018.06.11	ウイルス性発疹、38.0℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2018.08.13
ヒトライノウイルス	0～4歳	男	2018.06.26	下気道炎(気管支炎)、無呼吸、湿性咳嗽	咽頭ぬぐい液	2018.08.08
ヒトパレコウイルス1型	0～4歳	男	2018.06.17	痙攣重積(急性脳症疑い)、40.0℃、熱性けいれん	便	2018.08.01
風疹ウイルス(再掲) (遺伝子型 1E)	20歳代	女	2018.04.30	麻疹疑い、37.9℃	咽頭ぬぐい液	2018.08.07
風疹ウイルス	50歳代	女	2018.08.03	修飾麻疹疑い、発疹(紅斑)、結膜炎	咽頭ぬぐい液 尿	2018.08.04
ヒトヘルペスウイルス6 EBウイルス	0～4歳 40歳代	男 男	2018.05.12 2018.04.24	手足口病またはギアノッティ症候群、発疹、リンパ節腫脹 麻疹疑い、39.0℃、発疹(紅斑、丘疹)、koplik斑	咽頭ぬぐい液	2018.08.02 2018.08.07

○乳児1名の便からヒトパレコウイルス1型 (HPeV-1) が検出された。HPeV は小児において不顕性感染もしくは胃腸炎症状や呼吸器症状をきたすことが多いが、乳幼児期には脳炎等の中枢神経症状や敗血症様症状をきたすことがある。HPeV-3 は2014年、2016年に流行がみられ、2～3年周期の流行が認められているため今後の動向に注意が必要である。

○修飾麻疹疑いの成人女性1名から風疹ウイルスが検出された。今年に入り、当所では風疹ウイルスが2件検出されており、1件目の遺伝子型は1Eであった。全国における2018年の風疹ウイルス検出数は、8月14日現在で1Eが17件と最も多く、2Bが3件、1aが3件となっている。全国的に風疹の流行がみられるため、ワクチン接種歴が不明な場合は抗体検査やワクチン接種の検討が望まれる。

## 🇯🇵 全国 2018 年第 31 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (全国第 31 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	338 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	163 例	腸チフス	2 例		
4類感染症	E型肝炎	9 例	A型肝炎	22 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	1 例	デング熱	1 例	日本紅斑熱	5 例
	マラリア	2 例	ライム病	1 例	レジオネラ症	25 例
5類感染症	アメーバ赤痢	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	40 例	急性脳炎	7 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例	後天性免疫不全症候群	16 例
	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10 例	侵襲性肺炎球菌感染症	23 例
	水痘(入院例)	5 例	梅毒	88 例	播種性クリプトコックス症	4 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	百日咳	201 例	風しん	19 例

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 101% とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症と流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎である。

RSウイルス感染症の報告数は4,180人(1.3)で前週比137%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.49)の約2.7倍である。宮崎県(3.1)、徳島県、福岡県(2.8)からの報告が多く、年齢群別では2歳以下が全体の約9割を占めている。

ヘルパンギーナの報告数は9,809人(3.1)で前週比101%とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.2)とほぼ同率である。山形県(11.3)、長野県(9.9)、宮城県(7.1)からの報告が多く、年齢群別では1～4歳が全体の約8割を占めている。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

## 月報告対象疾患の発生動向 <2018年7月>

### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は28人(2.2)で、前月比88%と減少した。また、昨年7月(2.9)の76%である。

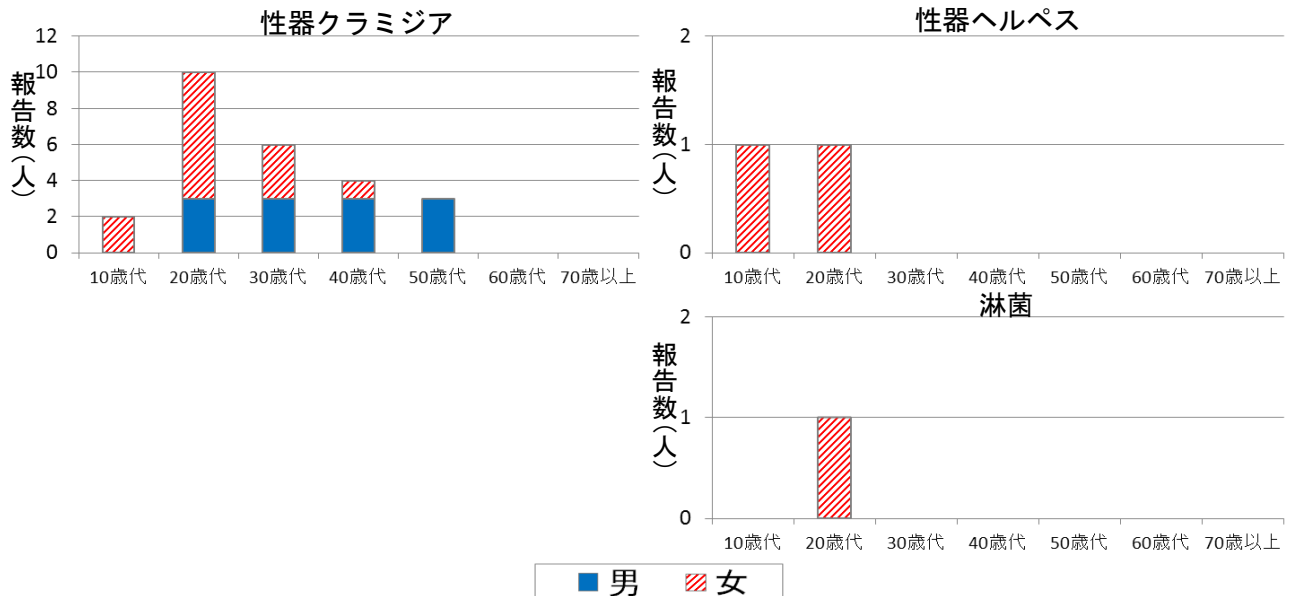
《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数25人(1.9)で、前月の1.1倍、昨年7月と同率である。  
20歳代が全体の4割を占めている。(男性12人・女性13人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月の0.4倍、昨年7月の約0.7倍である。  
(女性2人)

○尖圭コンジローマ：報告なし。

○淋菌感染症：報告数1人(0.08)で、前月、昨年7月の約0.3倍である。(女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：985

定点医療機関からの報告総数は4,207人(4.3)で、前月比101%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,176人(2.2)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症826人(0.84)で前月比106%、尖圭コンジローマ505人(0.51)で前月比96%、淋菌感染症700人(0.71)で前月比109%である。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比100%と同率だった。また、昨年7月(3.0)の81%である。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数16人(2.3)で、前月の約0.9倍、昨年7月の0.8倍である。70歳以上が全体の約6割を占めている。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、昨年7月と同率である。年齢は70歳以上である。(前月報告なし。)

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：481

定点医療機関からの報告総数は1,454人(3.0)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,292人(2.7)で前月比99%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症154人(0.32)で前月比103%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比200%である。

宮崎県 感染症情報

(58定点医療機関)

2018年 第32週(08月06日～08月12日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	6										
	定点あたり	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	108	139	33	14	55			22		12	3
	定点あたり	3.09	4.48	3.67	2.80	13.75	0.00	0.00	5.50	0.00	4.00	3.00
咽頭結膜熱	報告数	21	21	5	4	6	2		3	1		
	定点あたり	0.60	0.68	0.56	0.80	1.50	0.67	0.00	0.75	1.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	49	61	24	11	5	8	5	4	1	2	1
	定点あたり	1.40	1.97	2.67	2.20	1.25	2.67	5.00	1.00	1.00	0.67	1.00
感染性胃腸炎	報告数	269	227	54	51	10	20	21	9	4	46	12
	定点あたり	7.69	7.32	6.00	10.20	2.50	6.67	21.00	2.25	4.00	15.33	12.00
水痘	報告数	14	5	4					1			
	定点あたり	0.40	0.16	0.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	145	89	35	3	14	9	8	7	1	10	2
	定点あたり	4.14	2.87	3.89	0.60	3.50	3.00	8.00	1.75	1.00	3.33	2.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	36	35	8	5	10	4	2	1		3	2
	定点あたり	1.03	1.13	0.89	1.00	2.50	1.33	2.00	0.25	0.00	1.00	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	53	65	7	4	24	3	1	3		22	1
	定点あたり	1.51	2.10	0.78	0.80	6.00	1.00	1.00	0.75	0.00	7.33	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	27	32		2		29				1	
	定点あたり	0.77	1.03	0.00	0.40	0.00	9.67	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	15	6	6								
	定点あたり	2.50	1.50	2.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:47、小児科定点:31(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:4、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～32週)

2類感染症	結核	114例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	25例(1)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	22例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	つつが虫病	1例	日本紅斑熱	9例(1)	レジオネラ症	5例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	4例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	8例
	急性脳炎	6例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	20例(1)
	水痘(入院例)	1例	梅毒	2例	播種性クリプトコックス症	4例
	破傷風	4例	百日咳	211例(10)	風しん	2例

( )内は今週届出分、再掲